

2月13日（火）岩根小学校を訪問しました！

対談テーマ

教職員の働き方改革について

「学校経営骨太モデル事業」において、ミドルリーダー層の教員の授業負担を軽減し、教頭の業務を支援する取組を通じて、校務運営の要である教頭の負担軽減と将来の管理職候補の育成に向けて取り組む岩根小学校の実践を見聞し、教職員の働き方改革と人材育成について考えました。

訪問した教育委員

窪田 知子 委員 野村 早苗 委員 石井 太 委員
塚本 晃弘 委員

岩根小学校について

岩根小学校はコミュニティ・スクールが県内で初めて設置された学校です。子どもも教職員も笑顔あふれる岩根小学校を目指して人権教育と特別支援教育を大切にしておられます。毎週水曜日に業務改善推進委員会を開き、PDCA サイクルで様々な業務改善に取り組み、超過勤務時間の削減や生徒指導に係る負担感の減少など成果を上げておられます。



意見交換より

委員：組織で業務改善など新しいことに取り組むにあたり、抵抗される方や、戸惑う方などおられませんでしたか。

学校：まずは教職員のアンケートを取って全職員の声を聴くところから始めました。

轅轡：校長会でコロナ対応について市教委がトップダウンで方針を出したがうまくいかなかったです。やはり先生方に一旦考えていただくことが大事だと思います。

委員：外国にルーツのある児童と関係を築く上での工夫や課題はありますか。

学校：文化の違いに戸惑うこともあります、多様な価値観に出会うことができるので他の子どもにとっても学びのチャンスと捉えています。

委員：コミュニティ・スクールで地域の方はどのような関わりをされていますか。

学校：草刈や畑の耕しなどして下さる。コミュニティ・スクール活動報告会では、民生委員や教職員全員が集まり、学校が子どもたちの成長を伝えたり、みんなで次はどんなことができるか話し合ったりしています。

委員：手探りで様々な業務改善を進められる中、意図せず効果が生まれたことはありましたか。

学校：2年生以外は単級なので基本、学年で話し合えないが、若手教員が他学年の先輩教員に気さくに相談する姿が見られるようになりました。入り授業でできた余白の時間に「先生の授業を観に行ってもいいですか」と前向きな姿が見られるようになりました。